

## 第7回若年労働者部会（平成22年12月3日開催）における主な指摘事項

## （副題について）

- 青少年のキャリア形成、自立を社会で支えていくためのネットワークの構築が図られるような副題とすべき。
- 副題の趣旨を説明する内容を本文に盛り込むべき。

## （ワーディングについて）

- 人口減少下において、若者が貴重な存在であることは理解できるが「希少性」という表現については再考の必要がある。
- 「学校段階からの『計画的な』キャリア形成支援」というのは、ただ計画があればよいというものではなく、学校段階それぞれの連携が必要になるため「体系的」としてはどうか。
- 「主体的なキャリア形成」と記載してあるが、キャリアは一人で作れるものではないので「主体性を尊重したキャリア形成」など表現を工夫すべき。

## （若者施策全般について）

- 制度・施策に関する広報について記載する必要がある。
- あらかじめ決まった適性・能力に基づく職業選択のみを強調するのではなく、職務に就いてから能力開発されていくものだということにも触れるべき。
- 若者の中には、一人で悩んで就職に至らない者もいるため、ハローワークを充実させるとか、都道府県に対してサポート体制を充実させると言うことに言及すべき。
- 先般改正された「青少年の雇用機会の確保等に関して事業主が適切に対処するための指針」など、若者の応募機会の拡大に向けた政府の対策にも触れ、補強すべき。
- ネットカフェ難民問題 派遣切りの問題等、若年ホームレスへの取組みについても言及すべき。
- 住宅の問題については、青少年福祉という視点を踏まえると、進学や就職に伴う地域間移動という切り口で言及すべき。

## （勤労青少年ホームについて）

- 勤労青少年ホームを、若年層のための総合的な情報センターのように情報発信基地として機能を強化すべき。
- ネーミングについて、認知されるような愛称の検討などに言及してはどうか。